様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２３ 日現在

機関番号：３２６４３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ０２１２８

研究課題名（和文）農村の観光産業化における住民幸福度の変化に関する日伊比較研究

研究課題名（英文）A comparative study between Italy and Japan on farmers' well-being in rural tourism.

研究代表者
五艘　みどり（Midori, Goso）

帝京大学・経済学部・准教授

研究者番号：００５０８６０８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：ルーラルツーリズムに関与することで地域住民の幸福度がいかに変化したかをイタリアと日本を比較しながら明らかにした。調査はイタリア・南チロル県・サン・ジェネジオ村と京都府和束町とした。本研究では、①南チロル県のルーラルツーリズムの発展過程と担い手である農村女性の役割の明確化、②ルーラルツーリズムに関わる農村住民の幸福度指標の検討、③幸福度指標で最も重要と考えられたエンパワーメント創出に着目しての日伊の差異および日本の課題の明確化、といった成果が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、持続的な農村のあり方を模索する日本の多くの地域に対して、イタリアの先進的取組を紹介するのみでなく、農村の持続的なあり方に担い手の幸福感という新たな視点を用いることの重要性を示すという点で、意義のある研究であると考えている。

研究成果の概要（英文）：The study clarified how the well-being of local residents changed as a result of their involvement in rural tourism, comparing Italy and Japan. The study sites were the village of San Genegio, South Tyrol, Italy, and the town of Wazuka, Kyoto Prefecture, Japan.The study (1) clarified the development process of rural tourism in South Tyrol and the role of rural women as bearers of rural tourism, (2) examined indicators of the well-being of rural residents involved in rural tourism, and (3) focused on the creation of empowerment, the most important indicator of well-being, to identify differences between Italy and Japan and challenges in Japan.

研究分野：地域活性化、欧州のルーラルツーリズム

キーワード：ルーラルツーリズム　幸福度指標　農村女性　エンパワーメント　イタリア　アグリツーリズモ　京都府和束町　日伊比較

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

日本の農村の多くは著しい少子高齢化と農業の後継者不足に喘ぎ、持続的な地域のあり方が課題となっている。そこで農村における観光産業化（ルーラルツーリズム）が注目され導入されてきたが、その発展は限定的であった。一方、イタリアではルーラルツーリズムが全国に広がっており、なかでも南チロル県（トレンティーノ・アルト=アディジェ州ボルツァーノ自治県）は、農民連合によるマーケティングや女性の活躍もあってその発展が著しい。そこで、ルーラルツーリズムが発展するイタリアと取組みが道半ばである日本を比較することで、日本の課題を整理し、課題解決に向けて何が必要であるかを明確にしたいと考えたのが、本研究の発端である。

ルーラルツーリズムは、地域資源の経済的価値のみならず、自然的・社会的・文化的な価値を統合し、内外関係者が連携して進める「統合型農村観光」の視点が重要であると指摘されてきた（Saxena ; 2007, Cawley ; 2008）。この視点は地域住民の内発的な取り組みと地域への定着の重要性を示すものとして意義があったが、内発性の創出やモチベーションの維持がどのような要因により引き起こされるのかという具体的な内容までの言及は無かった。地域住民の内発性の創出とモチベーションの維持には、住民が地域で安心かつ満足して暮らしていることが前提であり、さらに地域への愛着を持っていることも不可欠であると考えられる。そこで本研究では、ルーラルツーリズムの担い手における内発性の創出やモチベーションを保つには幸福感が影響するのではないかと考え、二国の比較において幸福感を分析の中心的視点に据えることとした。

２．研究の目的

本研究は、ルーラルツーリズムに関与することで地域住民の幸福度がいかに変化したかをイタリアと日本を比較しながら明らかにすることを目的とした。これにより、イタリアと日本における幸福度の変化の差異および、日本のルーラルツーリズムの担い手側の課題が導き出されると考えた。本研究は、持続的な農村のあり方を模索する日本の多くの地域に対して、イタリアの先進的取組を紹介するのみでなく、農村の持続的なあり方に担い手の幸福感という新たな視点を用いることの重要性を示すという点で、意義のある研究であると考えている。

３．研究の方法

世界のルーラルツーリズムの潮流と課題、農村住民における幸福度研究を概観した後、イタリアと日本の農村部で現地調査としてルーラルツーリズムに関与する農村住民へインタビュー調査を実施した。対象地は、イタリア・南チロル県（トレンティーノ・アルト=アディジェ州ボルザーノ自治県サン・ジェネジオ村）と京都府和束町とした。南チロル県では 2017 年 9 月・2018 年 2 月・2018 年 11 月に、京都府和束町では 2019 年 2 月に現地調査を実施した。京都府和束町は、宇治茶の最大産地として茶畑景観を活用したルーラルツーリズムを進めているが、著者は過去 15 年以上に亘りまちづくりの助言を行ってきた。そして地域の事情を詳細に理解していることから、日本側の対象地として選定した。インタビューは、サン・ジェネジオ村の農村住民へ 20 名、和束町の農村住民 10 名へ実施したほか、ルーラルツーリズム支援組織に関してイタリアで 4 件、日本で 1 件インタビューを実施した。さらに南チロル農民連合の協力を得て、県内の全アグアグリツーリズモ（農家民宿）経営農家の女性へインターネット・アンケート調査を行い、2,800 件のうち 330 のサンプルを得た。

４．研究成果

（１）イタリア・南チロル県のルーラルツーリズムを支える農村組織と農村女性の分析

イタリア・南チロル県のルーラルツーリズムを支える農村組織の分析をした。イタリア北部の南チロル県（ボルツァーノ自治県）では、1990 年代以降アグリツーリズモを中心としたルーラルツーリズムが発展した。この背景には多様な農村組織が、農村住民の地域向上、農業の強化を支援するのみでなく、農村観光の振興を支えたという経緯がある。そこで、南チロルの農村観光とそれを支える農村組織に着目し、農村組織が南チロルの農村観光の発展にて果たした具体的な役割を明らかにした。この成果は、2017 年の日本観光研究学会などで発表した。

次に、南チロル県のルーラルツーリズムを支える農村女性の役割を明確化した。南チロル県のルーラルツーリズムは、農村女性が多様なネットワークの形成と組み込みを経て、新たな役割を果たし、統合型ルーラルツーリズムを形成したことを明らかにした。このことは、具体的に次の 5 点を証明したことから結論付けることができる。第 1 に、農村女性はルーラルツーリズムへ関わり、県内・集落内という異なる規模において多様なネットワークを形成してきた。そして、ルーラルツーリズムに積極的に関与する農村女性ほど、複数のネットワークに所属することがわかった。第 2 に、農村女性はアグリツーリズモの経営，観光客への農産物や体験プログラムの販売などを通して、ルーラルツーリズムの発展に大きく貢献した。第 3 に、農村女性はネットワークの形成と組み込みを経て、生業である農業に活力を与えた。第 4 に、農村女性におけるルーラルツーリズムへの関与は、農村女性の既存の価値観や意識を変化させ、時には地域への愛着心を再認識させ、時には次世代の価値観や意識にも影響を与えた。第 5 に、農村女性のルーラルツー

リズムでの活動を支える多様なネットワークは、南チロルの自治意識の高さという社会・文化背景が定着の要になった。これらの一連の成果は、第1回世界アグリツーリズモ会議、国際地理学会（ケベック大会）で発表するとともに、博士論文として取りまとめた。

（２）ルーラルツーリズムに関わる農村住民の幸福度指標の検討

南チロル県において 2017 年から 2018 年にかけて実施したインタビュー調査と、南チロル農民連合と連携して実施したアンケート調査をもとに、ルーラルツーリズムに関わる農村住民の幸福度指標を検討した。南チロル県ではルーラルツーリズムの担い手の 8 割以上が女性であることから、対象を農村女性に絞り込んだ。Rivera et al.（2016）は、観光振興における地域住民の幸福度の視点には、社会的、環境的、経済的、文化的側面があると述べたことから、この視点をもとに南チロル県におけるルーラルツーリズムと農村女性の活動を分析し、幸福度指標を設定した（表）。その結果、4つの指標が設定された。①社会的側面の幸福度指標は、「個人のエンパワーメント」と「組織のエンパワーメント」に分けられ、「個人のエンパワーメント」は「自己実現の機会」「社会的交友範囲の拡大」「新たな趣味」「自身の教育」、「組織のエンパワーメント」に「農村女性の意見の尊重」「農村組織への女性参画」「農村女性協会と他組織の連携」という項目が影響していることがわかった。②環境的側面における幸福度指標には、「自然環境の良さ」と「生活環境の良さ」という項目が影響していることがわかった。③経済的側面における幸福度指標は、「経済的自立」「経営技術の向上」「経営の拡大」「経営者仲間の増加」といった項目が影響していることがわかった。④文化的側面における幸福度指標は、「伝統や文化の外部への発信」「伝統や文化の次世代への継承」という項目が影響していることがわかった。これらの成果は2019年の日本観光研究学会等で発表した。

【表】ルーラルツーリズムに関わる農村住民の幸福度指標

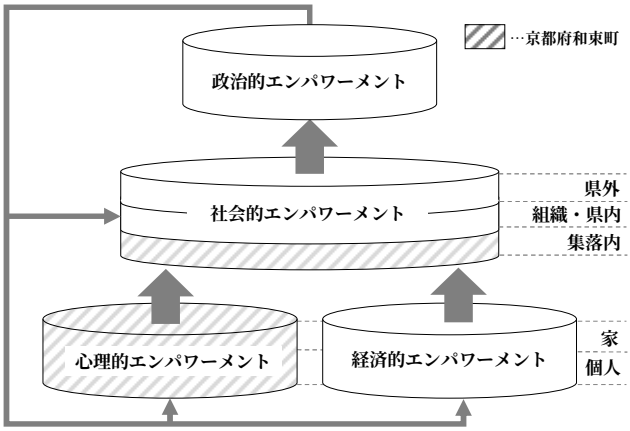
社会的側面	個人のエンパワーメント	自己実現の機会（自身の意識の変化）
		社会的交友範囲の拡大（ネットワーク）
		新たな趣味（新たな世界）
		自身の教育（社会的資源としての価値向上）
		外部への影響（地域外・次世代への影響）
	組織のエンパワーメント	農村女性の意見の尊重
		農村組織への女性参画
		農村女性協会と他組織の連携
環境的側面	自然環境の良さ	
	生活環境の良さ	
経済的側面	経済的自立	
	経営技術の向上	
	経営者仲間の増加	
文化的側面	伝統や文化の外部への発信	
	伝統や文化の次世代への継承	

（３）ルーラルツーリズムにおける農村女性のエンパワーメントの日伊比較

（２）のルーラルツーリズムに関わる農村住民の幸福度指標の検討では、幸福度指標としてエンパワーメントが非常に重要であるとされたため、エンパワーメントを中心に研究を深化させた。まず、京都府和束町でルーラルツーリズムに関わる農村女性のエンパワーメント創出過程を分析した。分析の視点は、靏（2003）や五艘（2019）の研究を参考に、①社会資源の状況（学歴・生活経験・経済力）、②ルーラルツーリズムの経営権や意思決定権、③活動を通して得たネットワークの状況、④自身の意識の変化、⑤外部への影響、とした。①社会的資源の状況としては、対象者における学歴・職歴といった社会資源は、都市住民と遜色なく、むしろ非常に豊かであった。これは、対象者に若い世代が多く、一部は起業ありきで U/I ターンし地域に居住した若者であることが背景にある。こうした社会資源の豊かさは、起業への意欲の高さに繋がると考えられた。②ルーラルツーリズムの経営権や意思決定権としては、和束町のルーラルツーリズムで積極的に活動する女性の多くは、事業において高い経営権や意思決定権を持ち、なかには極めて優れた経営的資質を有していることがわかった。③活動を通して得たネットワークとしては、いずれの対象者も「横のつながり」と言えるような水平型の緩やかなネットワークを持ち、その中で国内外観光者、観光業仲間、セミナー仲間と繋がり、自身の社会活動の範囲を広げていったことがわかった。④自身の意識の変化としては、すべての対象者から学びへの姿勢、農業や農村生活への気づき、地域への愛着の拡大といった内容のいずれかが創出されていることがわかった。⑤外部への影響では、ルーラルツーリズムにおける農村女性の活動は、地域の経済活動を活性化させるのみでなく、近隣住民、親戚、次世代など多様な人々の意識や行動へも影響を与えていることがわかった。これらの成果は、2020 年の日本観光研究学会等で発表した。

次に、京都府和束町を対象にして行った研究の枠組みをもとに、イタリアと日本のエンパワーメント創出の比較研究を実施した。ここで「幸福度」の比較研究としなかったのは、研究を進めるうちに、幸福度の測定はこれまで世界保健機関や内閣府が示してきたような定量的な方法が主流であったものの、農村のような特定の狭い範囲でそれを実施するのが難しい上、地域が抱える事情が多岐に亘り、定量的調査結果の比較では明確な分析結果が望めないという指摘（Rivera et al.；2016）があったためである。そこであくまでインタビュー調査による定性的結果をもとに、エンパワーメントを「心理的」「社会的」「経済的」「政治的」の 4 カテゴリにわけて南チロル県サン・ジェネジオ村と京都府和束町を比較した。その結果、「心理的」「社会的」エンパワーメントはいずれの地域でも創出されたが、サン・ジ

ェネジオ村の方が強く示されたことがわかった。また、「経済的」エンパワーメントはサン・ジェネジオ村では十分に見られたが和束町では限定的で、「政治的」エンパワーメントはサン・ジェネジオ村では見られたが和束町ではまったくみられなかった。こうした差異は、図のように示すことができた。4つのエンパワーメントは南チロル県およびサン・ジェネジオ村で確認されたもので、うち斜線部分は和束町で確認されたエンパワーメントである。日伊の差異の要因には、3点が考察された。1つ目は、ルーラルツーリズムや農村女性の活動を推進する組織が確立し、農村女性を支援する体制が十分に整っているかという点であり、南チロル県には資力も政治力もある強力な組織が存在するにも関わらず、和束町には協議会が存在するのみであった。2つ目は、ルーラルツーリズムの収益性である。これは二国の傾向を反映しているとも言えるが、サン・ジェネジオ村ではルーラルツーリズムが十分な収益性を持つのに対し、京都府和束町では収益性が低く、地域への経済効果が弱いことがわかった。3つ目は、農村女性のエンパワーメント創出の循環の仕組みである。すでに述べた2つの要因により、サン・ジェネジオ村ではエンパワーメントが良い循環で創出される環境が生まれたが、和束町でそこまでには至らなかった。こうした点から、日本のルーラルツーリズの重要な担い手である農村女性のエンパワーメント拡大の課題として、ルーラルツーリズム支援組織などの推進体制、講習会などの経営に関する学習機会の提供、ロールモデルとなる農村女性の焦点化により農村女性のエンパワーメントの好循環を発生させることが指摘できた。同時に、周囲の地域住民の意識改善も進めることが必要であることがわかった。この成果は、地域活性研究の論文投稿等を通して発表した。



【図】南チロル県およびサン・ジェネジオ村と京都府和束町における農村女性のエンパワーメント拡大の違い

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 五艘みどり	４．巻 1677
２．論文標題 世界の農業は今－農村を潤すイタリアのアグリツーリズモ	５．発行年 2021年
３．雑誌名 農業	６．最初と最後の頁 56,61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 五艘みどり	４．巻 16
２．論文標題 ルーラルツーリズムにおける農村女性のエンパワーメント －日伊比較の視点から	５．発行年 2022年
３．雑誌名 地域活性研究	６．最初と最後の頁 1,10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 五艘みどり	４．巻 23
２．論文標題 ルーラルツーリズムにおける農村女性の役割－イタリア・南チロルを事例として	５．発行年 2021年
３．雑誌名 立教観光学研究紀要	６．最初と最後の頁 31,40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 五艘みどり	４．巻 0
２．論文標題 京都府和束町のルーラルツーリズムに見る農村女性のエンパワーメント	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本観光研究学会全国大会学術論文集 36	６．最初と最後の頁 179,184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18979/jitrproceedings.36.0_179	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 五艘みどり	4．巻 0
2．論文標題 ルーラルツーリズムにおける農村女性の幸福度指標の検討―イタリア南チロルの事例をもとに	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本観光研究学会全国大会学術論文集 34	6．最初と最後の頁 421,424
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 五艘みどり	4．巻 0
2．論文標題 南チロルのルーラルツーリズムの発展において農村組織が果たした役割	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本観光研究学会全国大会学術論文集 32	6．最初と最後の頁 401,404
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　4件／うち国際学会　2件）

1．発表者名 五艘みどり
2．発表標題 ルーラルツーリズムの推進組織のあり方に関する一考察
3．学会等名 地域活性学会第12回研究大会
4．発表年 2020年

1．発表者名 五艘みどり
2．発表標題 新型コロナウイルス問題下におけるイタリアの観光産業と観光政策
3．学会等名 日本観光研究学会第35回全国大会ワークショップ
4．発表年 2020年

１．発表者名 Midori Goso
２．発表標題 The Changes of Farmer Women’s Role through Managing Agriturismo in South Tyrol, Italy
３．学会等名 International Geographical Union 2018 Regional Conference in Quebec（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Midori Goso
２．発表標題 Agritourism in Japan ; The Case Study of Wazuka in Kyoto
３．学会等名 1st World Congress on Agritourism (Eurec Research, South Tyrol)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 五艘みどり
２．発表標題 南チロルのアグリツーリズモ経営における農村女性の関わり
３．学会等名 日本地理学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 五艘みどり
２．発表標題 アグリツーリズモによる持続的農村の形成
３．学会等名 農林水産省アグリツーリズモ ／アルベルゴ ディフーゾ勉強会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 五艘みどり
２．発表標題 イタリアにおける 長期滞在観光を可能にする 食の仕掛け －南チロル県の事例から
３．学会等名 第3回ロングステイ観光学会定例研究会（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 五艘みどり
２．発表標題 世界にはこんなに凄い農泊エリアがある
３．学会等名 延岡ふるさとツーリズム協議会　（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 五艘みどり
２．発表標題 ガッロ・ロッソの取り組みについて
３．学会等名 茂木まちホテルツーリズム協議会（招待講演）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計1件

１．著者名 帝京大学地域経済学科編集委員会	４．発行年 2022年
２．出版社 八朔社	５．総ページ数 280
３．書名 地域と観光産業（「地域」の学び方－経済社会を身近に考えよう，第10章）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ルーラルツーリズムにおける農村女性の役割－イタリア南チロルを事例として（博士論文）
https://rikkyo.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=14710&item_no=1&page_id=13&block_id=49
研究者情報（J-Global）
https://jglobal.jst.go.jp/detail?JGLOBAL_ID=200901056004579929&rel=0
研究者情報（帝京大学）
https://www.e-campus.gr.jp/staffinfo/public/staff/detail/2664/170
南チロル農業新聞掲載紙面
https://www.teikyo-u.ac.jp/campus_news/utsunomiya/2018/1012_7738.html
研究者情報
http://jglobal.jst.go.jp/public/200901056004579929

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
イタリア	Sudtiroler Bauernbund	Rooter Hahn		